



令和6年度

文化庁活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

東京都日野市

自治体名：東京都日野市

担当課名：教育委員会 教育部 教育指導課

電話番号：042-514-8728

1.自治体の基本情報



基本情報

面積	27.53 km ²
人口	187,494人
公立中学校数	8校
公立中学校生徒数	4,318人
部活動数	70部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	令和4年度に設置済み 「日野市地域文化スポーツ連携協議会」
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

令和4年度、本市は教育委員会に加え、スポーツ・企画部局、地域企業、スポーツチーム、大学、団体が参画する「日野市地域スポーツ連携協議会」を発足。持続可能な地域スポーツの運営基準、人材・財源確保について協議を進めた。令和5年度には、「ひのスポ!」「ひのカル!」の拠点校・種目拡大、人材確保、受益者負担や寄付・協賛を含む財源確保の検討を行い、持続可能な地域文化・スポーツ環境の構築を目指した。

【課題】

統括団体の設置

令和4年度に設置された「日野市地域スポーツ連携協議会」（令和5年度より「日野市地域文化スポーツ連携協議会」）は、教育委員会が主体となり運営を継続している。しかし、持続的な事業運営と財源管理のため、法人化を検討し、自立・自走できる統括団体の設置を目指す。

連携団体の拡大

市内約4,300名の中学生を対象に、持続可能なスポーツ環境の確保を進めた。令和5年度上半期には「ひのスポ!」I型を拠点校で本格実施し、下半期には地域スポーツ教室や習い事と連携した連携II型を導入。運営条件や責任を整理し、令和5年度の実績（I型14種目・連携II型2事業者）を基にさらなる拡充を進める。

休日の学校部活動（教員負担軽減）への取り組み

教員は現在も休日の学校部活動を継続しており、負担軽減につながりにくい状況が続いている。そのため、学校と連携し、「ひのスポ!」が休日の部活動を補う取組みを推進する。また、全教員を対象にアンケートを実施し、ニーズや課題を把握し、効果的な負担軽減策を検討する。

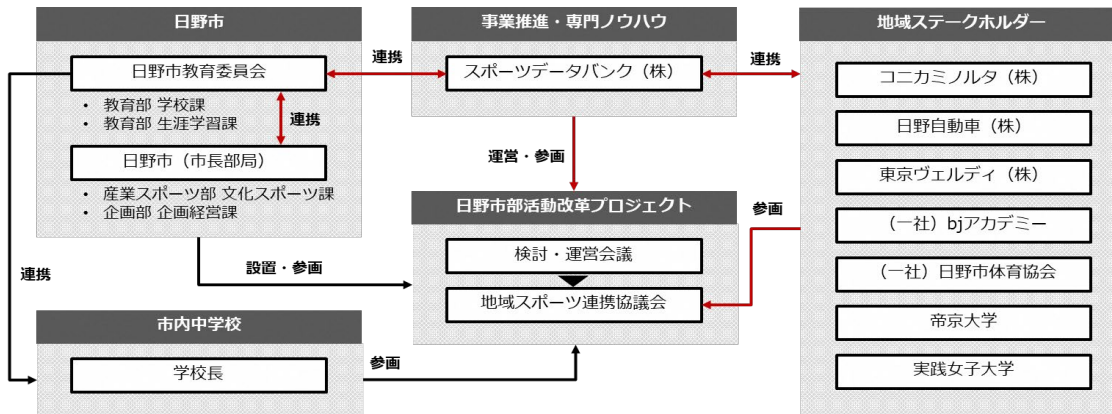
外部資金の獲得

受益者負担の軽減を目的に、企業版ふるさと納税を活用した寄付受け入れの準備を進めている。首長部局（企画部等）と連携し、令和6年中の受け入れスケジュールを策定。経済的困窮世帯（就学援助世帯）を対象とした支援を実施し、持続可能な資金調達体制の構築を目指す。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（教育部 教育指導課）

本事業の主管課・方針の決定

◎首長部局（産業スポーツ部 文化スポーツ課、企画部企画経営課）

教育委員会との連携・財源確保・基金等の検討

年間の事業スケジュール

- 令和6年 4月 拠点校の選定 / プログラム実施準備
- 令和6年 4月 ひのスポ！ひのカル！周知チラシの配布
- 令和6年 4月 教員対象アンケート実施
- 令和6年 5月 連携Ⅱ型 団体募集
- 令和6年 5月 ひのスポ！ひのカル！奨学金事業利用者募集
- 令和6年 7月 ひのスポ！ひのカル！奨学金事業利用開始
- 令和6年10月 拠点校での「ひのカル！Ⅰ型」実証の開始
- 令和6年10月 第8回日野市地域文化スポーツ連携協議会の開催
- 令和7年 2月 拠点校での「ひのカル！」アンケート実施
- 令和7年 2月 次年度計画の決定
- 令和7年 2月 日野市地域文化スポーツ連携協議会の開催
- 令和7年 2月 事業完了報告書・成果報告書等の作成

2.実証内容と成果

地域文化クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	8校	実施した地域クラブ総数	2クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0クラブ（0部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2クラブ
全体の指導者数	5人	全体の運営スタッフ数	4人

②各クラブに関すること

種目	料理	マジック教室
指導者	ひの社会教育センター	音辻せいや（マジシャン）
実施期間	10/20（日）～3/9（日）	1/26（日）～3/9（日）
時間	10:00～13:00	日曜：13:30～15:30
申込期間	9/10（火）～9/24（火）	12/10（火）～1/8（水）
実施場所	日野市東部会館 2階料理実習室	日野市立日野第四中学校 食堂
参加対象	市立全中学校生徒／市立全小学校5,6年生児童 ※初心者歓迎	市立全小学校5,6年生児童／市立全中学校生徒 ※初心者歓迎
定員	16名	30名程度
参加費	800円（税込）+6,000円／6回分食材費実費	800円（税込）
日程	①10/20（日） ②11/10（日） ③12/15（日） ④1/19（日） ⑤2/16（日） ⑥3/9（日）	①1/26（日） ②2/9（日） ③2/16（日） ④3/2（日） ⑤3/9（日）
持ち物	エプロン 三角巾 筆記用具	体育館履き 水筒

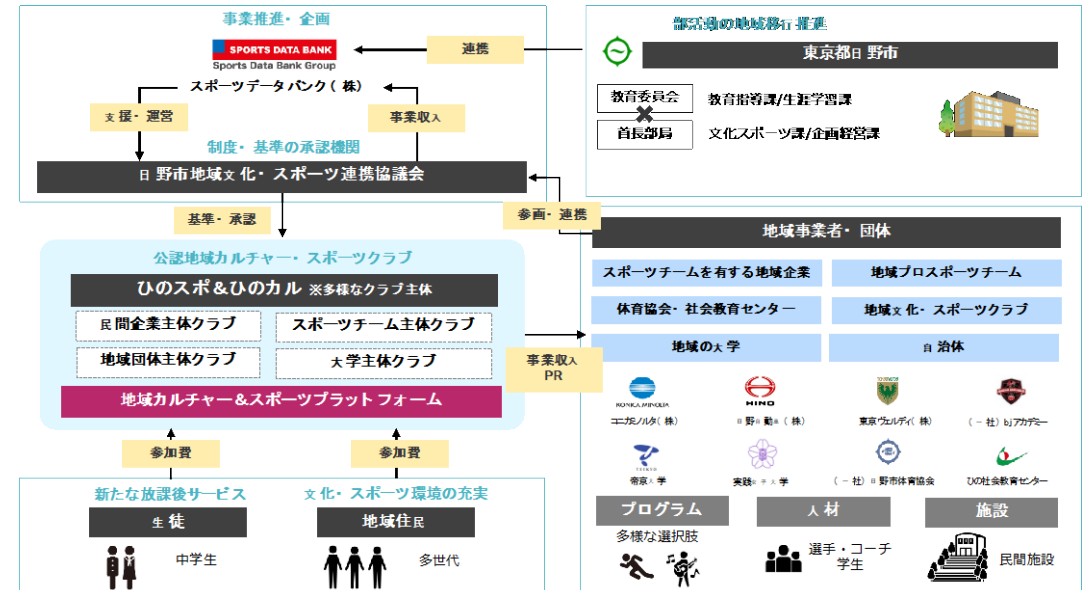
2.実証内容と成果

主な取組例

●日野市型地域移行モデル ひのカル！ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	料理／マジック教室
運営団体名	ひの社会教育センター／音辻せいや（個人）
期間と日数	種目ごとに設定
指導者の主な属性	民間指導団体
活動場所	学校体育施設、食堂等
主な移動手段	保護者の送迎、徒歩、公共交通機関
1人あたりの参加会費等（年額）	800円（税込み）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

事業総括責任者（プロデューサー）

事業推進にかかる監督・指揮、企画立案及び各種助言

統括責任者（ディレクター）

事業進捗管理、制度構築、会議設置、企画提案・推進等

事業主任担当者（コーディネーター）

実証にかかる各種調整、人材確保、運営管理、会議サポート等

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

協議会の法人化を目指し関係団体と協議を進めた。また、運営基準「ひのカル！コード」を策定、運用の準備を進めた。地域クラブの運営においては、コーディネーターを中心に、ひの社会教育センターと連携。また、地域の個人指導者を開拓した。以上の取組により、地域クラブの持続可能な運営体制の構築に向けた基盤整備を進めた。

取組の成果

文化活動の運営主体として「ひの社会教育センター」と連携

- ・ 自主開催型（Ⅰ型）の「料理」1種目の実施において、実施準備から実行までを整備
- ・ 外部の既存プログラム紹介型（連携Ⅱ型）の連携先として、「ひの社会教育センター」の9プログラムを中学生向けに紹介することで調整
地域の個人指導者の開拓と、不登校生徒の参加実績
- ・ 自主開催型（Ⅰ型）の「マジック教室」の実施では、近隣地域（八王子市）在住の個人指導者「音辻せいや」氏と連携。
- ・ 「マジック」というニーズの限定された種目での開催であったが、参加者には学校を不登校になっている生徒の参加が認められ、生徒の多様なニーズに応じた「居場所の創出」の実例となった。



協議会での議論と成果

- ・ 「ひのスポ!」「ひのカル!」の基本方針と理念を策定した。
- ・ 指導者・指導団体の認証を行う「認証コード」の運用版を作成した。
- ・ 地域クラブ運営マニュアルの原案を整備した。
- ・ 収支の試算を実施し、受益者負担の引き上げを検討した。

今後の課題と対応方針

統括団体の体制整備と継続的な指導者確保が課題である。地域企業や大学と連携し、運営団体の安定化を図るとともに、認証コードの実用化で質を確保する。また、自治体補助金と受益者負担の適正化を進め、持続可能な財政基盤を整える。さらに、企業版ふるさと納税や企業協賛、寄付制度を活用し、外部資金の確保を強化することで、安定した運営体制を確立する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

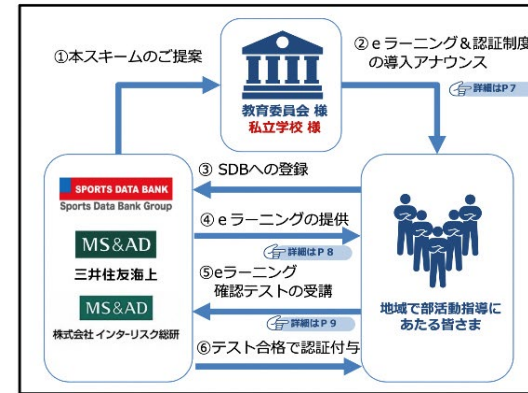
取組事項

e-Learningを活用した指導者研修を拡充し、指導の質を向上させた。また、市内事業者と連携した「ひのカル！ひのカル！」連携Ⅱ型を拡充（日野社会教育センター、すばたま）し、生徒の体験機会を広げた。

取組の成果

ひのカル！コード（認証制度）

認証項目	達成状況	達成率	備考
A：事業理念への理解			
1 ひのカル！ひのカル！の理念等を理解している	<input type="radio"/> 必須 <input type="radio"/> 推奨	△ 推奨	①活動理念の承認書
B：指導者の管理体制			
2 各地域クラブ活動に適切な指導者を有し、配置等の確保、確保が図られている	<input type="radio"/> 必須 <input type="radio"/> 推奨	△ 推奨	②指導者リスト
3 指導者のプロフィール情報を事前に提示することができる	<input type="radio"/> 必須 <input type="radio"/> 推奨	△ 推奨	③指導者プロフィール情報書
4 管理団体と指導者の契約書を取り交わしている	<input type="radio"/> 必須 <input type="radio"/> 推奨	△ 推奨	④契約書の写し
C：アセスメントの実施体制			
5 各地域クラブ活動の実施において、経験の有無を問うべき項目を設定できるプログラムを構築している	<input type="radio"/> 必須 <input type="radio"/> 推奨	△ 推奨	⑤既存プログラム
6 各地域クラブ活動の実施計画を事前に提示し、実行、終了することができる	<input type="radio"/> 必須 <input type="radio"/> 推奨	△ 推奨	⑥実施計画書
D：安全管理体制（1）			
7 各地域クラブ活動の実施にあたり、緊急連絡に対応できる体制を整備している	<input type="radio"/> 必須 <input type="radio"/> 推奨	△ 推奨	⑦実施計画書
8 緊急事態が発生した場合の対応法について、研修を実施している	<input type="radio"/> 必須 <input type="radio"/> 推奨	△ 推奨	⑧研修資料等
9 指導団体として、危機管理に関するルール、規程を整備している	<input type="radio"/> 必須 <input type="radio"/> 推奨	△ 推奨	⑨実施計画書
10 心身の発達に関する情報や、ハラスメントについての理解を促す研修をしている	<input type="radio"/> 必須 <input type="radio"/> 推奨	△ 推奨	⑩研修資料等



&

研修項目

- 自然災害への対応
- 救急蘇生法
- 防犯
- コンプライアンスの重要性和ハラスメント防止
- 子どものメンタルヘルス不調と対応
- 個人情報の取り扱い
- ケガ予防（実地）

ロ e-Learningの画面イメージ

アバターによるナレーション付きで理解を促します
スマートフォンからも受講可能です

e-Learning 研修制度

受講後は小テスト（10問）で理解を確認
（例：一次救命措置と熱中症の小テスト 一部抜粋）

問1
あなたは、部活動中に生徒が倒れているのを発見しました。あなたが次に行うべき行動はどれか？ひとつ選んでください。
[a] 119番通報とAEDを依頼する。
[b] 現場の安全確認を行う。
[c] 峡谷圧迫を開始する。

認証制度による指導者の基準づくりと、コンプライアンス対応等を含む研修を組み合わせた、指導者の質の確保

今後の課題と対応方針

連携Ⅱ型の拡充が課題であり、指導者の確保と質の向上が不可欠となる。そのため、「ひのカル！コード」の運用強化を図り、適切な基準に基づいた指導者の育成を進める。また、地域事業者との連携を拡大し、次年度以降のプログラム提供を円滑に実施する。

指導者確保のための周知強化として、市公式ホームページやSNSで募集情報を発信するとともに、地域企業・大学・スポーツ団体への直接アプローチを行う。また、公民館や地域イベントでの説明会を検討し、潜在的な指導者の発掘を進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

地域クラブの主体的な運営を推進するため、「ひのスポ！ひのカル！連携Ⅱ型」の拡充とモデル事業の実施に向け、地域ステークホルダーとの連携強化と募集を行った。また、企業・団体・大学等の参入メリット（学校施設の活用等）を整理し、持続可能な連携体制の構築を検討。これにより、地域資源を活用したクラブ活動の発展に向けた基盤整備を進めた。

取組の成果

自主開催型（Ⅰ型）では、料理2名、マジック教室1名の指導者を確保し、連携先である「ひの社会教育センター」にて指導者ネットワークを活用した。連携Ⅱ型の実施により、外部団体が抱える指導者を取り込み、指導者の確保を進め、同センターの文化・スポーツ活動を含む幅広い指導者のプログラムを紹介し、生徒の活動機会を拡充した。

さらに、地域クラブの統括団体として、日野市、ひの社会教育センター、スポーツデータバンクの3者による「法人化」について議論を進めた。文化指導者ネットワークを持つひの社会教育センターと、スポーツ指導者ネットワークを持つスポーツデータバンクが連携に合意し、統括団体の「事務局機能」を2者で分担することに基本合意した。法人化の具体的なスキームの検討も進み、持続可能な地域クラブ運営体制の構築に向けた大きな進展を得た。



連携 ひのスポ！ひのカル！連携プログラム
 民間の団体が主催する文化・スポーツ活動のうち、日野市地域クラブ活動「ひのスポ（ひのカル）」の趣旨にあつたものと確認できたプログラムを、日野市立中学校生徒に向けて紹介します。（令和6年6月29日実施）

ひの社会教育センター

相撲 時間：毎週土曜日 17:00～18:30 場所：多摩川地区コミュニティホール TreeHALL (Tomonow PLAZA2階) / ひの社会教育センター	ちくちく手紙カフェ 時間：2024年6/23日、9/22日、2025年3/2日 10:00～12:00 場所：ひの社会教育センター ロビー
トランポリン 時間：毎週土曜または日曜日 11:20分 12:00～12:30 場所：平日は多摩川、市民会館センター 体育館	北欧manabikafe 時間：2024年7/21日、9/8日、14:00～15:30 9/11日、2025年11月、3月1日（開校予定） 場所：ひの社会教育センター
日曜ドラム 時間：【日曜日】 日曜日 Aコース19:00～19:45 Bコース19:00～19:00 場所：ひの社会教育センター	中高生スポーツ （中高生スポーツを真正に楽しもう、体づくろう） 時間：月2回 火曜日 19:10～20:30 場所：高島体育館
自演（はくえい）先生の書道入門 時間：金曜日 18:00～19:30 場所：ひの社会教育センター	けん玉指導 時間：毎週土曜日 14:00～16:00 場所：ひの社会教育センター
字刺ヒラタイス 時間：月曜日 13:30～15:00 月2回 金曜日 13:30～15:00 月3回 場所：ひの社会教育センター TreeHALL (Tomonow PLAZA2階)	QRコード *本ページのQRコードは、このページのQRコードと同じです。

今後の課題と対応方針

文化活動における指導者やプログラムの選択肢が限定的であり、地域クラブへの参加機会が十分に確保されていない。また、地域の文化団体・教育機関・企業との連携が不足しており、持続可能な活動環境の構築が課題となっている。

ひの社会教育センターを中心に、地域の文化団体や大学、専門家と連

携し、音楽・演劇・美術・伝統文化など多様なプログラムを提供する。また、指導者の確保と育成を強化するため、e-Learning研修や認証制度を活用し、「ひのカル！コード」に基づいた質の高い指導体制を整備する。さらに、地域イベントでの発表機会を設け、地域住民との交流を促進し、文化活動の認知度向上と参加者拡大を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
工：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 工：面的・広域的な取組

取組事項

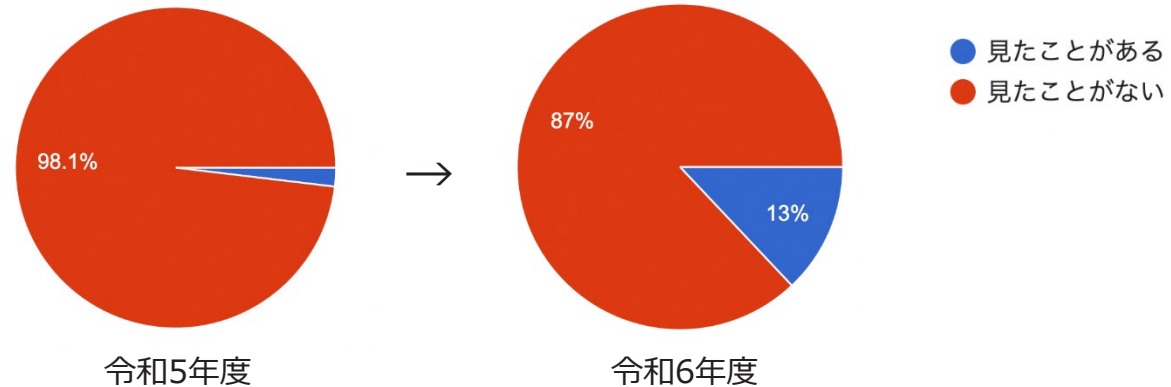
日野市の地域クラブ活動の現状を地域クラブ公式ホームページで発信し、周知を強化した。また、チラシ添付によるメール配信を通じて情報提供を行った。

日野市立学校の生徒向けに学習者用端末へ登録された「ひのスポ！ひのカル！」専用WEBページについて、令和5年度の実証終了後のアンケートでは、生徒の95%が認知しておらず、98%が閲覧したことがない状況であったが、令和6年度の同アンケートから、認知していない生徒が81.5%、閲覧したことがない生徒が87%と、それぞれ認知拡大の改善が見られた。

取組の成果

【生徒向け実証後アンケート結果から】

学習者用端末にあるブックマークから、ひのスポ！ひのカル！WEBページを開いて、見たことがありますか



今後の課題と対応方針

令和6年度の調査で認知度は向上したものの、依然として多くの生徒が「ひのスポ！ひのカル！」専用WEBページを認識・活用していない。情報発信の手段や効果的な周知方法のさらなる改善が求められる。学校との連携を強化し、学習者用端末の活用促進を

図る。また、SNSや動画コンテンツを活用し、生徒が興味を持ちやすい発信方法を検討する。さらに、授業や部活動の時間を活用した周知活動を実施し、認知度と利用率の向上を目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

令和5年度に実施した種目の継続に加え、生徒向けアンケートの結果を基に新たな種目を検討した。地域団体、地域の指導者と連携し、従来の学校部活動の枠にとらわれない多様な種目を体験・活動できる環境を整備する目的で、マジック教室を開催。これにより、生徒の多様なニーズに対応し、選択肢の拡充を図ることができた。

取組の成果

新たな種目として、地域の指導者と連携してマジック教室を開催した。本教室には不登校の生徒も参加し、学校以外の学びの場としての役割を果たした。マジックは単なる手品の披露ではなく、「観客がいて初めて成立するショーパフォーマンス」としての要素を重視。生徒は、技を磨くだけでなく、観客の反応を引き出すための話し方や動作、見せ方を学び、自然なコミュニケーション力を身につける機会となった。また、初対面の観客に向けて発表する経験を通じ、人前での表現力向上や自己肯定感の育成にもつながった。地域の指導者と連携したことで、学校では学べない実践的な学びを提供し、生徒の多様なニーズに応える教育的意義のある地域クラブを実現した。



今後の課題と対応方針

マジック教室は定員20名に対し6名の応募にとどまり、認知度や興味喚起が不足している。また、「マジック教室」という名称では、手品の披露にとどまらず、コミュニケーション力を育成するプログラムであることが十分に伝わらない。今後は、学校や地域イベントでの体験会を実施し、興味を持つ生徒を増やす。また、「ショーパフォーマンス体験」など、内容をより明確に伝える名称へ変更を検討する。さらに、参加者の声や実演動画を活用した広報活動を強化し、関心を高める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

令和5年度後期より、800円（保険料相当）の参加費を徴収開始し、令和6年度も引き続き同設定での受益者負担を継続した。一方で、所得格差による機会損失を防ぐため、就学援助世帯の参加費免除については、令和5年度の「ひのスポ！ひのカル！」連携Ⅱ型を対象とした奨学金に加え、Ⅰ型の参加費800円も対象とした。奨学金の利用者は、Ⅰ型が定員50名に対して16名、連携Ⅱ型が定員10名に対して0名と、利用率は低く、制度の周知方法などについて課題が残った。新たな財源確保の手法としては、企業版ふるさと納税の寄付制度整備について議論を進め、外部資金の活用を目指した。

取組の成果

奨学金制度の拡充と一定数の利用者確保
令和5年度の「ひのスポ！ひのカル！」奨学金制度では、連携Ⅱ型（既存プログラム紹介型）に加え、自主開催型（Ⅰ型）の800円参加費も免除対象とした。その結果、Ⅰ型では50名定員に対し16名が利用し、一定の支援効果が見られた。

奨学金の利用率における課題の発見

Ⅰ型と連携Ⅱ型で利用率に大きな差が生じ、特に連携Ⅱ型では利用者がゼロであった。制度の周知方法や、連携Ⅱ型の利用者層における経済的支援のニーズについて検証が必要と判断された。

今後の課題と対応方針

奨学金制度の改善

Ⅰ型の奨学金利用者は一定数いたが、連携Ⅱ型では利用者がゼロであり、背景の分析が必要である。利用者層のニーズを把握するためのアンケート調査を実施し、経済的支援が必要な層へのアプローチを強化する。また、学校や地域団体と連携し、制度の周知方法を見直し、保護者向け説明会やデジタル媒体を活用した広報活動を強化する。



令和6年度 ひのスポ！ひのカル！奨学金のお知らせ

日野市教育委員会では、「ひのスポ！ひのカル！」に参加するための費用の一部を、福祉団体奨学金「ひのスポ！ひのカル！奨学金」として支給します。

◆奨学金支給対象者 (1)就学援助制度受給世帯 (2)令和6年度に日野市立小学校および中学校に通う生徒 ※(1)(2)いずれも該当する生徒	◆奨学金申請期間 令和6年5月24日 ～令和7年2月28日 ※遅くとも、申請期間終了まで、お早めに申し込みください。	◆奨学金利用期間 Ⅰ型奨学金：令和6年5月24日 ～令和7年3月31日 Ⅱ型奨学金：令和6年6月20日 ～令和7年3月31日
--	---	--

Ⅰ型奨学金  対象プログラム：日野市教育委員会が運営する「ひのスポ！ひのカル！」各プログラム 支給対象者：令和6年度に日野市立小学校および中学校に通う生徒 支給額：800円（参加費用として徴収する保険代に充当されます） 定員：50人まで	Ⅱ型奨学金 連携  対象プログラム：民間団体が運営・提供する「ひのスポ！ひのカル！」各プログラム 支給対象者：令和6年度に日野市立中学校に通う生徒 支給額：最大7,000円（月額上限7,000円×10ヶ月分） 定員：10人（利用状況により、追加募集あり） ※実施は、定員枠を超えない限り行われます。
◆奨学金申請方法 ※奨学金の利用申請は、「Ⅰ型奨学金 800円」および「Ⅱ型奨学金 最大7万円」それぞれ専用のフォームでの申請となります。 ※奨学金のお申し込みから利用までの流れの詳細は、HPをご覧ください。	◆ひのスポ！ひのカル！奨学金HP https://sites.google.com/ed-hino.jp/hinospo-hinocul/scholarship/ ◆お問い合わせ先 事務局(スポーツマーケティング株式会社) メール: coupon-hino@sdb-group.co.jp

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

学校施設の有効活用を進め、体育施設に限らず食堂などの活用により活動場所を拡充した。また、地域クラブ活動のための学校施設の優先利用や使用料減免の仕組みについて検討を実施。さらに、連携Ⅱ型（外部

プログラム紹介型）を拡充し、外部団体が使用する施設での活動を展開することで、学校以外の施設の有効活用を推進した。これにより、生徒が多様な環境で活動できる体制を整備した。

取組の成果

学校施設の有効活用を進め、体育施設に限らず食堂の活用を拡充した。すでに「けん玉」で利用していた市内中学校の食堂については、昨年度、調査を実施し、校舎との導線およびセキュリティの切り分け工事を完了。今年度は、新たに「マジック教室」を「けん玉」と同じ曜日・時間帯で開催し、施設の管理効率と利用率を向上させた。さらに、二次的な成果として、「けん玉」と「マジック教室」の指導者同士が自主的に交流し、最終日には合同で成果発表会を開催するなど、相互連携の促進につながった。



今後の課題と対応方針

食堂の活用や同時開催により利用効率は向上したが、活用可能な学校施設は限定的であり、さらなる拡充が課題となる。また、異なる種目の指導者同士の交流が生まれたものの、継続的な連携体制の確立には至っていない。今後は、他の学校施設の利活用可能性を調査し、導線・

セキュリティ対策を含めた環境整備を進める。さらに、異分野の指導者が連携しやすい仕組みを整備し、合同イベントの定期開催や共同プログラムの開発を推進する。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本年度は、地域クラブ活動の持続可能な運営に向け、学校施設の有効活用、指導者の確保・育成、経済的支援の拡充、地域団体との連携強化に取り組んだ。特に、体育施設以外の活用として食堂を利用し、「けん玉」と「マジック教室」を同時開催することで、施設の管理効率向上と利用率の改善を実現した。指導者の確保・育成では、e-Learning研修の拡充や「ひのカル！コード」に基づく認証制度の運用を進め、指導の質向上を図った。また、奨学金制度の拡充によりI型の参加費免除対象を広げたが、連携II型での利用者がゼロであり、周知不足や経済的支援ニーズの違いが課題として残った。さらに、企業版ふるさと納税の活用についても具体的な議論が進み、外部資金の確保に向けた基盤整備が進展した。一方で、広報活動の強化が必要であり、専用WEBページの認知度は向上したものの依然として閲覧率が低く、より効果的な周知方法の模索が求められる。今後は、学校や地域団体との連携を深め、多様な活動の選択肢を提供し、より多くの生徒が参加できる環境を整備する必要がある。

●成果の評価

本年度の成果として、学校施設の有効活用が進み、体育施設に加え、食堂を活用した「けん玉」と「マジック教室」の同時開催により、管理効率と利用率の向上を実現した。さらに、指導者同士の交流が生まれ、合同成果発表会の開催につながった。指導者の確保・育成では、e-Learning研修の拡充や「ひのカル！コード」の運用により、指導の質向上が図られた。一方、奨学金制度の利用率には課題があり、I型では16名が利用したが、連携II型はゼロであり、支援の必要性や周知方法の改善が求められる。また、企業版ふるさと納税の活用に向けた議論が進展し、財源確保の基盤が整った。広報活動では、専用WEBページの閲覧率が向上したものの、依然として多くの生徒が認知していないため、より効果的な情報発信が必要である。

●今後に向けて

今後は、学校施設のさらなる活用可能性を調査し、食堂や多目的室の利用拡大を進める。また、異分野の指導者連携を強化し、合同イベントや共同プログラムの定期開催を推進する。奨学金制度の利用促進のため、学校や地域団体との連携を強化し、説明会やデジタル広報を活用した周知活動を展開する。財源確保の面では、企業版ふるさと納税の寄付制度を整備し、地域クラブ活動を支える外部資金の活用を本格化させる。これらの取り組みを通じ、より多くの生徒が地域クラブ活動に参加できる環境を整えていく。

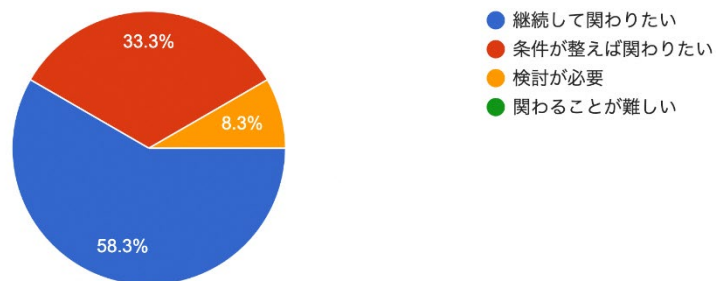
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

指導者向け

今後のひのスポ！ひのカル！への関わりについて教えてください

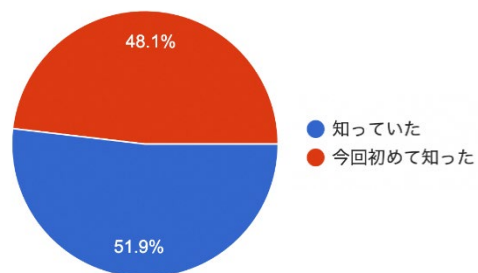
12件の回答



生徒向け

「ひのスポ！ひのカル！」のことを知っていましたか

54件の回答



●ステークホルダーの声

指導者

参加者が回を重ねるごとに積極的になり、他校の生徒とのコミュニケーションが増えた。指導を通じて、生徒が上達していく姿を見ることができ、やりがいを感じる。

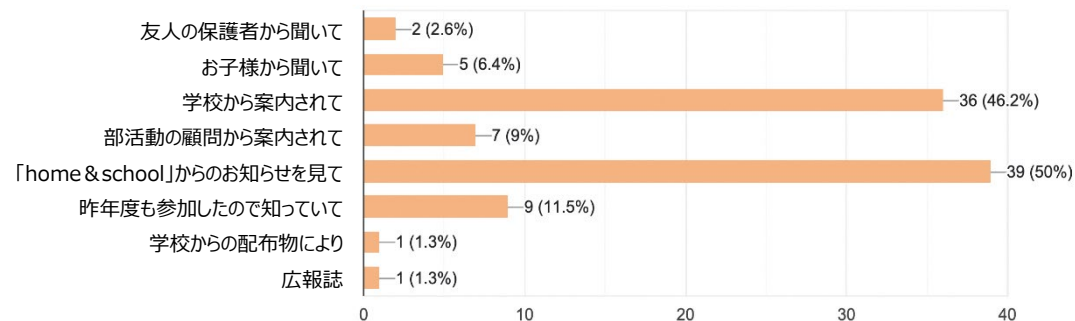
保護者

指導者の質が高まれば、子どものやる気にもつながると考えている。文化系の活動も充実させてほしい。まだまだ運動部中心の印象がある。

保護者向け

参加したひのスポ！ひのカル！を知ったきっかけを教えてください（複数選択可）

78件の回答

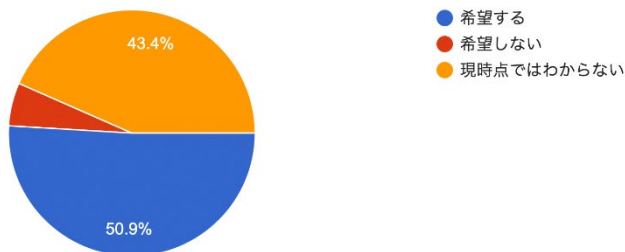


アンケート結果・広報資料

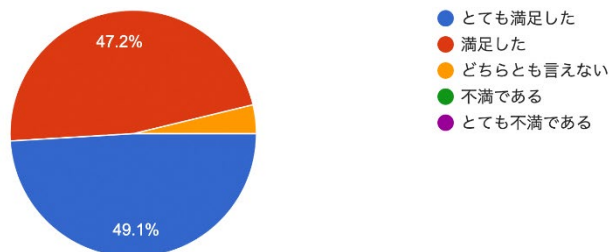
生徒向け実証後アンケート結果の前年度との比較

令和5年度

今後も、ひのスポ！ひのカル！への参加を希望しますか
53件の回答



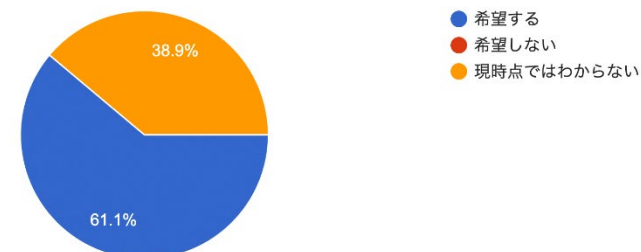
ひのスポ！ひのカル！の全体的な満足度を教えてください
53件の回答



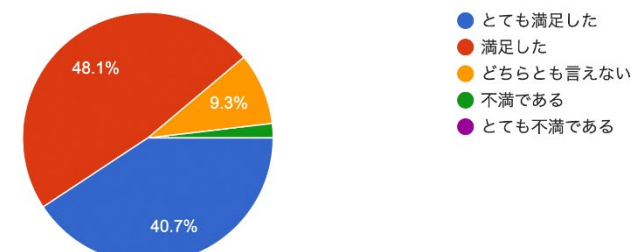
出典:【生徒様用】R5年度「ひのスポ！ひのカル！」終了後アンケート調査

令和6年度

今後も、ひのスポ！ひのカル！への参加を希望しますか
54件の回答



ひのスポ！ひのカル！の全体的な満足度を教えてください
54件の回答



出典:【生徒様用】R6年度「ひのスポ！ひのカル！」終了後アンケート調査

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



ひのカル！料理



ひのカル！マジック教室



ひのカル！料理



ひのカル！マジック教室

地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

関係者ヒアリング、調整

協議会設置、地域クラブ活動検討開始

令和5年

学校現場との拠点校調整

ひのカル！実施、受益者負担開始、奨学金導入実証

令和6年

種目の拡充

推進計画の策定、運営団体の法人化検討

1. ステークホルダー

- 行政：日野市教育委員会
- 実施機関：スポーツデータバンク株式会社
- 学校関係者：市内中学校の校長会、教員
- 地域団体：地域の文化・スポーツ団体
- 保護者・生徒：直接の参加者・利用者

2. 経過

- 協議会発足：地域クラブ活動の必要性を認識し、関係者との協議開始。

3. 実施にあたって生じた課題

- 学校との調整：従来の部活動との役割分担や協力体制の構築に時間がかかった。
- 指導者の確保：地域クラブに適した指導者の確保。
- 保護者の理解：新しい仕組みへの理解促進が必要。
- 拠点会場の確保：セキュリティ管理が環境として整った学校施設の確保が物理的にこんな五。
- 用具類置場の確保：学校施設内に保管されている用具を地域クラブ活動時に共有使用する際に、会場への用具移動が困難。

4. 実施内容・工夫した点

- 関係団体との連携強化：スポーツ・文化団体と協力し、持続可能な運営モデルを模索。

1. ステークホルダー

- 令和4年度と同じ（ただし、協議会が本格的に機能し、関係者が増加）

2. 経過

- ひのカル！2種目実施。
- 奨学金制度の検討・実施：低所得層への支援策を検討し、受益者負担の軽減を模索。
- 連携プログラム開始：地域団体との協働を強化し、参加者の選択肢を拡充。

3. 実施にあたって生じた課題

- 運営の持続可能性：事業の拡大に伴い、安定した運営資金の確保が課題。
- 指導者の質の向上：多様な活動を支える指導者の質を維持する必要性。
- 利用者の拡大：知名度向上が必要であり、参加者を増やすためのプロモーションが求められる。

4. 実施内容・工夫した点

- 奨学金制度の導入：一部の生徒に補助を提供し、経済的な障壁を下げる。
- 活動時間の調整：学校部活動と調整しながら、円滑な運営を実現。
- 拠点会場の確保のため、学校施設のセキュリティ工事を検討。工事予定会場を実証で使用。
- 関係者の協力促進：企業版ふるさと納税の活用可能性を探り、資金確保策を検討。

1. ステークホルダー

- 令和5年度と同じ

2. 経過

- 3種目に拡大：さらに種目数を増やし、多様なニーズに対応。
- 奨学金制度の拡充：支給対象を増やし、より多くの生徒が活動できるよう調整。

3. 実施にあたって生じた課題

- 運営体制の確立：法人化による統括組織の立ち上げと役割分担の整理が必要。
- 費用負担の見直し：持続可能な財源確保のため、参加費の引き上げが検討される。
- 地域団体の協力体制：さらなる地域クラブの発展には、より多くの関係団体との連携が不可欠。

4. 実施内容・工夫した点

- 拠点会場確保のため、学校施設のセキュリティ工事を実施。学校管理外の動きが取れた地域クラブ活動を実施することができた。
- 受益者負担の引き上げ：運営の持続可能性を高めるため、月会費制度の導入を検討。
- 企業版ふるさと納税の活用検討：令和7年度税制改正を踏まえ、企業からの寄付の活用準備を進め、新たな財源確保を目指す。
- 公式LINEの活用検討：情報発信の効率化、支払いリマインドの強化、問い合わせ対応の負担軽減を模索。

3. 今後の方向性



地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	令和5年度(実績)	令和6年度(実績)	令和7年度(予定)
学校部活動	維持・継続	維持・継続 (任意化の検討・一部実施)	休養日の拡大
I型	市内中学校8校 (学校体育施設)	市内中学校8校 (学校体育施設・食堂等)	市内中学校8校 (学校体育施設・食堂等)
II型	市内9プログラム	市内18プログラム	市内30プログラム程度
受益者負担	I型：保険料相当分 II型：保険料+参加費	I型：保険料相当分 II型：保険料+参加費	I型：年会費(保険料)+月会費 II型：保険料+参加費
低所得者対応	バウチャー実証事業 (「未来の教室」実証事業)	ひのスポ！ひのカル！奨学金実施 (市事業)	ひのスポ！ひのカル！奨学金 拡充 (市事業)
運営主体	日野市教育委員会	日野市教育委員会	統括団体(法人設立)

プログラム

- II型(地域事業者活用)プログラムの拡充 : 連携事業者の基準づくり
- 事業周知の拡大(生徒・保護者・地域事業者) : 学校部活動の改革(教員の働き方改革)との連動

受益者負担

- 参加費(II型は事業者が設定)の徴収 : 市側での費用徴収は困難
- 低所得者対象のバウチャー配布の実施 : 利用プログラムの拡充
- 企業版ふるさと納税等の寄付を活用 : 寄附の受入れ体制と運用方法の構築

運営主体

- 主体を教育委員会から統括団体(法人)へ移行 : 協議会の法人化
- ※教育委員会主体の運営は、運営管理・予算執行など運営上において不確定要素が多くなるため不向き